ふくろう新聞

＜発 行＞
特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広 報 委 員 会

洲本市中川原町中川原 28 番地 1
TEL：0799-25-8550
FAX：0799-25-8551
ホームページ
http://hyoufuku.main.jp
/fukurou/

厚浜踊りと流しそうめん

7月7日(日)、今年も夏のお楽しみイベント「流しそうめん」の日がやってきました。

当日は朝から天気も良く、「そうめん流し日和」となりました。午前中は、厚浜芸能保存会の方による厚浜踊りを楽しみました。始めは恥ずかしそうにされていた方も踊りを見ているうちに自然と手足が動き始め、いつの間にか踊りの輪に入っていく様子が見られました。

踊りの後は短冊にお願い事を書きました。家族や友人の健康を願う方、自身の目標を揚げる方などその人らしさがあふれる短冊に仕上がっていました。そしてお待ちかねの流しそうめんでは、待ちきれない方がどっと集まると物凄い勢いで食べ始め、あっという間に準備していた分が無くなってしまうというハプニングもありました。

最近は食事をほとんど摂ることなく過ごされていた竹邊さんでしたが、自らすすんで箸を伸ばし美味しそうに食べられていました。「美味しい」の声がたくさん聞こえ、素敵な笑顔で溢れるひと時となりました。

▲そうめんを楽しまれる澤田さんと長田さん

8月1日、入居者の竹邊正晴さん（82歳）が、人生の大半を過ごされた関西青少年サナトリュームへの訪問がようやく実現しました。

当時の主治医で現院長が挨拶がわりに語られた「日本経済の高度成長期が排除した幾多の人々を受け入れること、それが病院の使命とされた」との言葉が胸に焼き付きついています。同病院では100人近い参加で「夜明け前」の院内上映にも取り組まれています。

今回も地域の方やボランティアの方など、多くのご協力をいただきました、皆様のおかげで無事に終える事が出来ました。前日の暑い中からの準備も本当にありがとうございました。

（生活援助員　木下卓幸）

半世紀をこえての再会

▲ご友人と写真を手に昔を懐かしむ山岡さん　（左側２番目）

精神病院で50年間過ごしていらっしゃった山岡省二さんを描くべく、取材が始まりました。先日は松山聾学校時代の同級生がふくろうの郷を訪ねてきてくださいました。初めはお互い年を重ね、様子が変わってしまったことに戸惑いながらも、学生時代の写真に映る同級生たちを指さしながら懐かしんでいる様子がうかがえました。

（ふくろうまなびあい文庫
編集委員　橋詰恭子）

まなびあい文庫⑥ 戦後74年の今完成！

3年前から取り組み始めた『ふくろうまなびあい文庫⑥』。この新聞が皆さんのお手元に届くころには完成しているでしょう。

今回のテーマは戦争を体験した入居者、吉見輝子さん、武内千代美さん、山﨑榮子さん、3名の物語です。題して『手話で語る戦争体験』。戦時中、いかにして生き延びたか、また戦後をどのように過ごしてこられたかが描かれています。執筆したのは普段、お世話をさせていただいている職員です。入居者さんの過去の体験から何を学んだのか、職員の言葉で書かれています。ぜひご購読ください。

ふくろう物語

田中　豊さん

昭和10年12月27日生まれ。83歳。

大阪堺ろう学校で紳士服仕立てを学ばれており卒業後紳士服を作られていました。

辞められた後、印刷会社で活字をひろう仕事をされていました。

一方で国際手話に興味を持たれ海外へよく行かれていました。ふくろうカクテルバーで、職員が国際手話を使い話しかけると笑顔がこぼれ、嬉しそうにされていました。

奈良県で生活されていた頃に国際協力機構によるアジア太平洋ろう者リーダー研修事業により、日本に来られた一行の手話通訳団の一員として活躍されたそうです。

映画鑑賞が趣味でDVDを借りて家で見ている事が多かったです。DVDは新しいものが多く、奥様と鑑賞されたものらしきものはみつからなかったが、スパイダーマンやハリーポッター等、全て洋画のDVDが置かれていました。好きなDVDのことを尋ねるとパアッと明るい表情をされ、「懐かしい」と何度も話されますが、（聞かれることが）「恥ずかしい」とも言われました。

30歳ごろに奥様と結婚され娘さんが誕生しました。来訪された時には、昔観た映画の話しをされていました。ろう協の活動や手話サークルにも通われて、手話での交流を大切にされていました。

▲書道される田中様

グループホームで生活されていましたが、体力低下と共に生活に不安があり、手話のある環境での生活を望まれる娘様の希望で平成31年2月に入居されました。入居時はよく歩かれ、施設内を散歩されたり、お話されていました。

また、娘さんが奈良県生駒市で営まれているフランス料理店のお話をよくされ、「みんなで食べに行きたい」とおっしゃっていました。

国際交流にうちこまれていた体験をもっと話していただける日々を理解し大切にし、生活を支えていけたらと思います。

（生活援助員　山西　梓）

花木ユニット　料理レク

～焼肉パーティー～

▼真剣な谷口さんと入谷さん

7月31日（火）花木ユニットで焼肉パーティーをしました。まずは大きくて瑞々しい玉葱、青々としたピーマン、艶のあるナスなどたくさんの野菜をみんなで分担して切る作業です。「大きさはこれくらい？」「こうやって切るといいよ」等、身振り手振りで相談する小倉さんと水田さん。普段はあまり交流のない方同士も、このときは声を掛け合いながら取り組んでおられました。野菜やお肉を焼き始めると「疲れた」と休まれる方、「お箸貸して」と焼く方など様々でしたが、みんないい匂いに魅かれてか自然と笑顔になっていました。

食べる準備ができると待ってました！とばかりに食べ出した広島さんと長谷川さん。そしてあっという間に食べ終わり、満足そうに自室へ戻っていかれました。いつもは残されることの多い北川さん、谷口さんも「美味しい！」「もうお腹いっぱい！」とたくさん食べてくださいました。

暑い夏のちょっとしたお楽しみの日。皆さんの思い出のひとつに刻まれていると嬉しいです。

（生活援助員　川満幸子）

令和元年度 全国聴覚障害者施設協議会、施設長・相談員会議

7 月 4 日・5 日、高知で総会が開催され、1 年間の取り組み、各施設の現状と課題について話し合いが行われました。平成30年度の事業報告、令和元年度の事業計画案について話し合われた後、養護老人ホームの現状と課題について論議されました。

「障害者生活支援加算」の充実による取り組みと効果について集約し報告出きるようにすること、高齢聴覚障害者の障害特性と困難さを踏まえた「要介護認定調査」の項目と仕組みを見直すことにより「適正な調査結果」を確保することで基本報酬増を実現できるよう取り組んでいくことで意見の統一がなされました。

（介護主任　加野明宏）

すいか割りをしました

8 月 2 日に、毎年夏の恒例行事となっている、すいか割りが、ふくろうの郷地域交流スペースにて行われました。

今年のすいかは、地域の中川原青空会から購入しました。すいか割りの後は、「甘い。もう一つ食べたい」「夏を感じるなあ」と言いながら今年のすいかを楽しみました。

←職員と一緒にすいか割りに挑戦した、榎本さん

ケア・アシスタント説明会

4 名の参加で

ケア・アシスタント募集説明会を 7 月 31 日、13 時より開催し、4 名の方に参加して頂きました。

兵庫県が支援する「地元での新しい働き方」ひょうごケア・アシスタントは、介護保険施設で業務をサポートする仕事であり、高齢者・女性等の地域住民（一般県民）の方が自分の生活に合った時間で仕事を行って頂く制度となります。淡路島で介護事業を行っている 9 事業所が今回、この事業を進めています。働き方は、1 日 2～3 時間で体に負担の少ない業務をご希望の日時に従事していただきます。

「介護周辺業務」とは、部屋の掃除、食事の準備片付け、シーツ交換、洗濯など家庭でも行っている仕事と言えます。無資格未経験でも大丈夫です。時給は基本的に 871 円（最低賃金）となります。説明を行った後、施設見学では、入居者の暮らしを見て頂きました。暮らしを支えるための補助業務について洗濯、生活の場や共有の場の清掃、シーツ交換、食事の準備片付け、車いすの整備、その他にも補助業務や勤務時間等の質問を頂き、働いて頂けるような和やかな雰囲気で終了しました。

（施設長　狭間　孝）

働きやすい職場を目指して

法人理事会後に春闘要求の話合い

7 月 2 7 日(土)の法人理事会終了後、法人理事と労働組合の組合員が集まり、春闘要求について話し合いを行いました。理事も交えたこのような場は今回が初めてで、直接お互いの意見を聞くことができたため、得るものが多くあったように思います。

結果として話し合いは、検討すべき課題も多いことからお互いが納得のいく合意点に到着することが出来ませんでした。しかし今後も話し合いの場を設けていくことを約束し、閉会となりました。法人理事の皆さん、お忙しい中貴重な場を、本当にありがとうございました。

労働組合は、「この職場が好き！」だから「もっと働きやすい職場にしたい！」という思いから活動を続けています。ひとりひとりの要求をみんなで交渉し、みんなで団結して、みんなが「ここで働きたい」と思える環境づくりを今後も努めてまいりたいと思いました。

（ふくろう分会　執行委員長　山田　繁和）

淡路聴覚障害者センター便り

洲本市港 2-26
洲本市健康福祉館３階

手話奉仕員養成講座 第一回目集中講座（6・30）

1回目の今回は「聴覚障害とは」のテーマで淡路ふくろうの郷で開催され、島内４会場から30名が参加されました。

まず、法人の大矢理事長と入居者が体験してこられた、差別に満ちた人生を紹介、その後、柏木智之さんから「ろう者の生い立ち」、伊達美紀さんから「職場での配慮」という内容で話をしていただきました。

参加された方はそれぞれの人権を無視された体験にふれ、驚きや衝撃、怒りを感じるとともに手話講座の受講をきっかけとして手話を学ぶだけでなく、なにか自分にもできることを考えていきたい等と感想を寄せています。（岡本久子）

手話を学ぶこと・・・それは ろう者が生きてきた背景を学ぶことも

▲大矢理事長と入居者の勝楽佐代子さん「夫の強制断種」竹邊正晴さん「長期の精神病院入院」黒﨑時安さん「戦争体験」の話を聞く受講者のみなさん

参加者の感想文から(抜粋)

○「私はニュースで旧優生保護法による強制不妊手術のことを初めて知りました。今回、大矢さんから話を聞き、こんな身近なところに被害者がいることにとても驚きました。また一番近くにいる身内が強制するのだからどうしようもなかっただろうと思います、また実名で裁判を起こしたことで身内から非難された方の話を聞いて、いまだに理解されていないことを残念に思いました。最近、出生前診断についてニュースで報道されます。私も子供ができたら受けたいと考えていましたが、大矢さんの話を聞いて少し考えが変わりました。今回直接皆さんのお話を聞くことができ、今まで漠然としていた障害者への認識を身近な出来事として感じることができました。（酒井　万姫）

○私が一番身近なものとして感じられたのは柏木さんの話です。高熱によって音を失うまでの話、お母様の苦しみ、そして今も続いている差別。ほぼ同年代を生きてきた者として大きく心に響きました。お子様を２人立派に育てられストレスの多い社会でどれほどかご苦労があったかと思います。また柏木さんの職場での状況を聞かせていただき、生活する上で立ち向かっていく事はまだまだたくさんあると思いますが私も含め周りが一緒に意識改革と成長ができればと思いました。（谷本　俊江）

「第6回みんなあつまれ輪はっは」(7月14日)

～子ども企画～

自己紹介の後、絵合わせゲーム。大人対子どもに分かれ白熱した戦い。やはり子どもの動きがすばしっこくこどもチームの勝ち。ずいぶん場が和みました

あわじ特別支援学校の小林・山本先生の協力でリトミックや太鼓や鈴の音などを当てるゲーム。みんな熱中。久しぶりに会うお友達で最初は緊張していましたが、いつの間にか仲良く遊び始め汗びっしょりに。

保護者は宝塚市の設置手話通訳者の笹倉博己さんから聴覚障害児の子育ての経験談をお聞きしました。幼少期、思春期、大学とその時々で変わる親子や先生との関わり、子供の自我への芽生え、情報保障の方法をお聞きし、「細かいところが聞けて良かった」「自分と重なる部分があり、分かりやすく、参考になった。」などの感想が聞かれました。

（センター長　楠本　恵利子）

真夏のような暑さの中でも大盛況!!

▲庄崎隆志さんによるパフォーマンス

中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンター

〒656-0002
兵庫県洲本市中川原町中川原222-2
TEL　0799-28-0990
FAX　0799-28-0992

7月28日(日)晴天の中、『わくわくフリーマーケットin中川原』を開催しました。平成29年度からはじまったこの取り組みも7回目。中川原連合町内会はじめ、多くの地元関係者方のおかげでシカ&玉ねぎフライのふるまい、流しそうめん、かき氷なども出店することができ大盛況でした。

また、今回のステージ発表ではいつもお世話になってる大野わらじクラブ、洲本高校ミュージックダンス部に加え、庄崎隆志さんにもパフォーマンスいただき老若男女喜んでいただける内容となりました。

次回は来年2月頃予定しております。皆様方の来場お待ちしております。(濱田良介)

冷やし白玉ぜんざい登場

いつものしそジュース、梅ジュースに加えて、冷やし白玉ぜんざいを販売しました。

連日の暑さにい続き、7月28日も暑い日となりました。思った通り大好評で飛ぶように売れました。黒にんにくにも興味を持っていただき、用意していた13袋は完売しました。

『86歳の手作り』と本人の売り込みで手作りバッグも売れました。(おのころの家　藤本)

おのころの家手作り製品の展示

シカ&玉ねぎフライのふるまい

フリーマーケット

大野わらじクラブ

〒652-0897
兵庫県神戸市兵庫区駅南通5-4 西高架下16号
TEL & FAX：〇七八・五七九・〇七五五

神戸事業所
共同作業所 神戸ろうあハウス
神戸ろうあハウス デーサービスセンター
神戸ろうあハウス

難聴デイサービス開始②

難聴高齢者のデイを始めて、2ヶ月が経ちました。

デイサービスが始まって分かった事が沢山あります。神戸市はろう者と難聴者も同じ聴覚障害者とみなしているので、難聴デイサービスの開始に難しい手続きもいりませんでした。しかし開始してみてコミュニケーション支援の違いの大きさを痛感しています。ろう高齢者は集まると自由に手話でおしゃべりをされますが、難聴者の場合は難聴者同士の会話に要約筆記者の仲介がいるのです。また、聞こえないけど口でお喋りされますから、みんなが一斉に喋り出すと要約筆記者はついていけなくなります。

そのために自然と難聴者の集まりは勉強会や会議が中心で、みんなでワイワイ会話する場が少ないとのこと、デイサービスでのスタッフの拙い要約筆記の支えであっても、お喋りができて楽しいと言ってくれます。また、「情報が少ない」と言われ、知りたいことが沢山ある様子で、いろいろなことを質問されます。その一つが新長田の施設建設について、またその動きや難聴者の関りなどです。難聴の皆さんはご自分たちは「蚊帳の外」と思われているようで、細やかに説明させていただくと、「難聴者も関係あるの」と大変、喜ばれます。

この3月にお試しにと、難聴の方に灘デイに来ていただきました。聞こえない人は何とか伝えようと、口話や空書、苦手な筆談を駆使していました。そんな様子に来られていた難聴の方も「皆さん親切で、楽しかった」との感想。やっぱり皆さん「お仲間だ」と思いました。そしてろう者と難聴者を繋ぐのがデイサービスの役目だと痛感しました。

これからも脳トレ、趣味活動、介護予防教室に加えて手話を含めた情報提供の時間をどんどん取り入れていきたいとおもいます。

神戸施設建設募金
目標　1億円

2019.8.1現在　募金合計額
68,068,173円
（プレート募金197人）
目標1億円まで、あと
31,931,827円

▲情報提供を交えての趣味活動です。

8月・9月　ふくろうの暮らし

8/16（金）	ふくろう手芸
8/17（土）	カクテルバー
8/20（火）	入居者懇談会
	ふくろう大学絵手紙
8/21（水）	ふくろう喫茶
8/23（金）	料理講座、回想法
8/24（土）	案山子づくり
25（日）	案山子づくり
9/ 2（月）	ふくろう理髪店
9/ 3（火）	ふれあい座、誕生日会
9/13（金）	ふくろう手芸
9/14（土）	敬老会、家族の会

施設見学・研修予定

8/5～6(月・火)	大谷大学志藤ゼミ(京都)	9名
8/31(土)	播磨西くすの木学級様	35名
9/1(日)	堺市ろうあ者福祉協会様	35名

ふくろうの郷見学者の感想

鳥取県那岐地区同和推進委員協議会のみなさん

〇ろうあ者とそうでない方と共に生活を送っておられる施設は聞いたことがありませんでした。行政の職員として、大きなヒントを頂きました。

〇入居者の生い立ちを聞くと、過去の日本が障がい者と向き合ってなかったかが良くわかりました。

〇人間として生きる為の楽しい場所にしようとしている点が印象的でした。